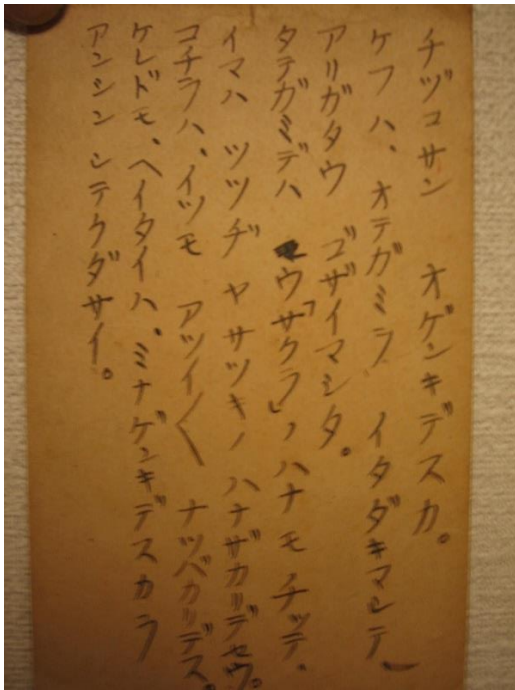


NO11

消印のない手紙

所在地は伊勢市（遺族個人所有）一昨年遺族に引渡された。



1942年、フィリピンに赴く兵士から郷里の志摩市立神に届いた1通の手紙。

そこには、花が咲き誇る郷里を思いながらも、無理な戦争への反発ともとれる兵士の心情が、「桜が散る」「暑い暑い」といった文言とともに綴られている。

そしてこの手紙は、軍隊の駐留情報流出防止のため消印がなく、検閲済みの押印もされていない。当時が、いかに温かい人の心を置き去りにしていたかがうかがわれる。

しわもないきれいな状態で現存するこの手紙は、当時、初等科1年生だった大東千鶴子さん（志摩市在住）が戦地に慰問手紙を書いたその返事で、一昨年遺族に引き渡された。

大東さんはこの手紙を見ては、今はなきこの兵士を思い、涙することがあったという。「2度とこんな戦争するべきでない」と力強く語る大東さん。兵士もきっと同じ思いだろう。